

自転車シミュレータを北海道交通安全協会に寄贈

日本損害保険協会北海道支部(委員長:加川 克仁・あいおいニッセイ同和損保株式会社 北海道地域担当執行役員)では、2月5日(月)に一般財団法人北海道交通安全協会に自転車シミュレータを寄贈しました。

自転車シミュレータとは、自転車利用時に想定される様々な危険を擬似的に体験することで、自転車乗用時のルールやマナー、危険予測を学習する機器です。当協会では、2014年度から、自動車損害賠償責任保険(自賠責保険)の運用益を活用した自動車事故防止対策・交通事故被害者支援事業の一環としてこの寄贈事業を実施しており、北海道交通安全協会に寄贈するのは今回で7回目です。

当日は、北海道交通安全協会で寄贈式を実施し、北海道交通安全協会の堀内 巖 専務理事や、蒔苗 敏之 常務理事、北崎 勝也 総務担当部長および大野 富穂 交通安全活動推進センター長にご出席いただきました。当協会からは北海道支部の加川委員長、消費者部会 信田 真 部会長および長崎 達 事務局長が出席し、加川委員長から「自転車シミュレータの活用を通じて自転車の安全な乗り方やルール・マナーを身につけ、地域の自転車事故防止に役立てていただきたい」との挨拶を行い、目録を贈呈しました。

また、堀内 巖 専務理事からは、自転車シミュレータの寄贈が地域の交通安全教育につながるものとして感謝状が授与されました。

北海道では平成30年4月から北海道自転車条例が施行され、自転車保険加入とヘルメット着用が努力義務とされていますが、昨年4月には全国的にヘルメットの着用が努力義務化されたこともあり、自転車の交通安全の機運がますます高まっています。

当支部では、関係団体との連携を通じ、引き続き、自転車の安全利用・ヘルメット着用・自転車保険への加入を推進していきます。



加川委員長(右)から堀内専務理事(左)に目録の贈呈



前列左から、堀内専務理事、加川委員長、長崎事務局長、
後列左から、北崎総務担当部長、蒔苗常務理事、
大野センター長、信田部会長